

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		守谷駅前親子ふれあいルーム運営管理事業		担当課	児童福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成27年度～
	施策	子育て支援の充実		種別	任意の事務
	基本事業	子育て不安の解消と交流の場の提供		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-030205-03 補助	根拠法令・条例等	児童福祉法	

なぜ、この事業を実施しているのか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和62年度に、児童に健全な遊びを提供し、健康の増進と情操を豊かにすることを目的に児童館が開館（久保ヶ丘地内）。その後、児童の健全育成のほか子育て支援拠点として、平成20年度に南北児童センターが開館したが、子育て世帯が増加傾向にある守谷駅周辺地区に児童施設がないことから、平成27年10月、守谷駅東口に立地するアワーズもありやに、利用対象者を小学生までとする児童館として開館した（地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金活用）。	・運営方法 運営業務委託（アクティオ(株)） ・委託期間 平成27年度～29年度 ・児童館業務 広場事業（子育てに関する情報交換・相談の場）、地域活動支援（子育て支援団体の支援）、異世代交流事業（地域高齢者及びボランティアとの交流の場）、育児相談事業・維持管理業務 施設・設備の日常的維持管理 ※施設・設備の保守点検、修繕等、管理全般は市が対応。 ※平成30年度からは運営業務受託事業者が変更する予定。 受託期間：2018年度～2022年度 受託事業者：葉隠勇進株式会社
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
0～12歳までの児童とその保護者に対して、児童が安心して遊べる場や保護者同士の交流の場、子育てに関する情報を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育て支援を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子育てに関する支援を受ける機会や、知人友人との相談や情報交換ができる場を提供し、保護者の不安解消や精神的負担の軽減を目指す。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・ 来館者の利用満足度調査結果は非常に高い（平成28年度末調査実績100％）が，来館者数が伸び悩んでいる。	【平成30年度】 ・ ～8月 地域行事及び連携すべき地域団体の調査 ・ ～12月 地域団体等への協力依頼 ・ ～3月 事業計画 【平成31年度】 ・ 4月～ 事業実施
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・ 当該事業について，近隣地域への十分な周知を行う。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
運営委員が属する地域団体等との連携を強化し、事業協力をいただけるような体制整備をすることで、地域全体で子どもを見守る気運の醸成につなげていく。	・平成29年7月 中央地区民生委員・児童委員（当該施設運営委員会委員）の視察及び手作りみこし等の寄付 ・平成29年8月 高校生ボランティア参加による事業実施 ・平成29年9月 守谷地区地域福祉活動計画実行委員（当該施設運営委員会委員）の事業参加

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
0～12歳までの施設利用者数（人）	0.00	8,684.00	7,942.00	8,000.00	8,900.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	・ 成果指標（0～12歳の利用者数）は前年度と同水準となっている。 ・ 年度当初に民生委員・児童委員協議会や地域福祉活動計画実行委員会、守谷高校等の地域団体に対して、情報提供及び事業協力を依頼し、事業実施につなげており、地域との連携強化という点では成果は向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	■ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	・ 引き続き地域団体との連携強化や事業周知を実施し、当該施設の認知度を一層向上させ、来館者数の増加につなげていく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	3,051	16,721	17,053	20,621	17,200
	国・県支出金	0	5,544	5,576	5,576	5,576
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	3,051	11,177	11,477	15,045	11,624
正職員人工数（時間数）		0.00	80.00	76.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	328	312	0	0
トータルコスト		3,051	17,049	17,365	20,621	17,200

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		地域子育て支援センター運営事業		担当課	児童福祉課・地域子育て支援センター
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成19年度～
	施策	子育て支援の充実		種別	任意の事務
	基本事業	子育て不安の解消と交流の場の提供		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-030202-15 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
少子化や育児環境の変化に伴う親の孤立化などにより子育てへの負担感が大きくなっており、子育て家庭を支える取組として、平成6年に小規模型子育て支援センター事業「夢っ子ひろば」を土塔中央保育所に開設した。その後、地域における子育て支援の充実を図るため、平成19年10月に野木崎保育所を改修し、守谷市地域子育て支援センターとして、子育て相談やサークルの育成等の事業を実施し、子育て支援の中心的な役割を担っている。	1 広場事業及び園庭開放（広場事業の開催：夢っ子ひろば，出前広場） 2 子育てサークル支援（交流会，部屋の貸出，おもちゃ貸出，サークル活動相談） 3 育児相談（来館相談，電話，メール，にこにこ相談，ぽかぽか子育て教室，保健センターでの育児相談（1歳6か月児健診）の実施） 4 子育て講座（健康保健講習，食育関係講座，安全に関する講習，親子ふれあい講座） 5 イベント（夢っ子まつり，夢っ子コンサート，ようこそ守谷へなど） 6 次世代育成（学生の子育て体験） 7 地域交流及びボランティア育成（高齢者やボランティアサークルとの交流，ボランティア育成講座等） 8 情報発信（守谷市子育て支援センター会議開催，情報誌トライアングルブック発行，広報誌発行，ホームページ及びSNSでの情報発信等）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内在住の未就学児とその保護者を対象とし，家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため，地域において子育て親子の交流等を促進する場所を設置することにより，地域の子育て支援の充実を図るとともに，保護者の不安感の緩和と児童の健やかな育ちを支援する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子育てに関する支援を受ける機会や，知人友人との相談や情報交換ができる場を提供し，保護者の不安解消や精神的負担の軽減を目指す。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
子育て支援の施設が増加し，市の子育て支援の施設がどこでどのような事業が行われているのか解りやすく市民に情報発信していく。このことから夢っ子ひろばとしては，各ひろばのアピールポイントをしぼり，子育て世代の母親のニーズに合わせてそれぞれのひろばの良さを生かし，子育て支援のさらに質の向上をめざす。 講座によっては人数が集まらないものもあるため，講座の内容や実施場所を精査していく必要がある。	- 各施設の子育て情報（月のおたより）のボックスを変更する。 3月までに作り替え 4月から使用 - 子育て支援情報誌「子育てトライアングルブック」の改訂版 3月発行 - 講座見直し 「子育てセミナー」廃止 「ベビーヨガ」廃止し、「赤ちゃん体操講座」へ組み入れる 「リトミック」周知に努め参加者を募る 「ウエーブストレッチ」回数増加、開催場所の検討
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
守谷市の子育て支援会議を利用して各施設に置いてある子育て情報のボックスを見直す。各施設で作っていた年間利用案内を変更し守谷市の子育て支援施設が一覧で見ることができるようにする。細かな各施設の紹介は子育て情報誌トライアングルブックを有効に活用していく。 夢っ子ひろばの講座については、松並地区の子育て世代の人数が多いため、夢っ子ひろば ほくえんでの講座を開講し、自家用車を持たない世帯にも利用できるようにする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	夢っ子ひろば みずきので，経年劣化により備品（プレーマット）の買替え，夢っ子ひろば のぎさきで，畳の維持管理費が必要となるため，事業経費は増加する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
・保健センター健診時などに出向いて広場事業の周知に努め、初めてでも生きやすい場所の紹介等を行い、利用促進を図っていく。 ・利用者に寄り添い、育児相談をしやすい場となるよう努め、育児不安の軽減につなげる。 ・子育ての孤立化を防ぐため、広場事業等へ参加したことのない親子に対する呼び掛けについて工夫が必要。	・市の子育て支援の施設を解りやすく、ホームページ等のSNSの環境を整え、市民に情報発信することができた。 ・夢っ子ひろばとしては、各ひろばのアピールポイントをしぼることで、子育て世代の母親のニーズに合わせてそれぞれのひろばを利用していただくことができた。 ・講座については、夢っ子ひろば ほくえんでの講座実施の希望が多かったので、ウェーブストレッチ講座を開催し、自家用車を持たない世帯への参加を促すことができた。引き続き夢っ子ひろば ほくえんでの開催を行う。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
夢っ子ひろば，出前広場の開催回数（回）	726.00	784.00	784.00	784.00	790.00
講座の開催回数（回）	51.00	48.00	48.00	59.00	55.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下		・家庭の中における親子関係だけで子どもが育つ状態が進んでいるが，事業参加者は，他の子育て世代や祖父母世代と触れ合い，見守られ，声をかけられながら育つ機会に触れることができる。これにより，子どもの健やかな育成とともに保護者の子育て困難感の解消につながっている。 ・育児相談ができて悩みが和らいだ等の声が聞かれており，育児不安の解消につながった。			
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持 □ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了		・引き続き，ひろば事業の周知に努め，利用促進を図ることで，育児に対する満足感を高める。 ・家庭における親子の子育てを活性化させ，地域社会との接点を広げていく。 ・地域の専門機関とのネットワークを強化し，子育て機関との連携を深める。 ・祖父母向けの講座を開催することで，講座を通じて多世代の方にも気軽に参加してもらえる，親しみやすいひろばを目指す。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	16,482	15,436	17,719	19,521	19,521
	国・県支出金	4,968	5,202	5,228	5,228	5,228
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	165	149	141	284	284
	一般財源	11,349	10,085	12,350	14,009	14,009
正職員人工数（時間数）		0.00	5,463.00	4,701.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	22,398	19,274	0	0
トータルコスト		16,482	37,834	36,993	19,521	19,521

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		子育て支援情報発信事業		担当課	保健センター
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成28年度～
	施策	子育て支援の充実		種別	任意の事務
	基本事業	子育て不安の解消と交流の場の提供		市民協働	
予算科目コード		01-040102-24 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
総合戦略アンケートで、相談できる場所やサービス、子育てに役立つ講座、行政からの情報提供は認知度が低いという結果が出た。現在は、広報、ホームページ、冊子、窓口対応や紙媒体設置であり、情報提供の限界を感じていた。そこで、子育て世代の情報収集の一般的なツールであるモバイルサービスを活用して簡潔に見える化し、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援のための子育て情報発信の環境整備が必要となったため。	子育て情報モバイルサイトを開設し、 ①年齢別目的別に子育てに関する市全体の情報をホームページに繋げ、自分の知りたい情報がすぐに取り出せるようにする。 ②メール登録した方に、講座やイベント情報、健診など市や関係機関の情報を年齢ごとにお知らせメールを発信する。 ③予防接種の個人スケジュール管理と接種時期に個人メールを配信する。 ④妊娠期・乳幼児期の年齢に応じた個別の記事（育児方法や成長過程など）を定期的に個人に配信する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
妊婦及び0歳から中学生までの保護者に対し、子育て支援の情報発信を行う。妊娠・出産から子育て期まで情報発信の環境を整え、守谷市の子育てサービスに見える化し、支援サービスを利用しやすくすることで、子育てに関する不安の解消や孤立化防止を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
子育てに関する支援を受ける機会や、知人友人との相談や情報交換ができる場を提供し、保護者の不安解消や精神的負担の軽減を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
平成29年10月末現在子育てナビ登録保護者数：704人 導入後、母子健康手帳交付時や転入手続き時、乳幼児健診、保育所への周知などで子育てナビの登録を勧めている。 妊娠中の情報発信を強化するため妊娠時からの登録を勧めたいが、妊娠期の登録が少ない現状である。 （参考） 平成29年9月母子手帳交付数：50 平成29年9月子育てナビ新規登録者（妊婦）数：12	母子健康手帳交付時や妊婦の転入手続き時に、パンフレットで子育てナビの周知を実施し、その場での登録を促す。 母に限らず父も登録できることを伝え、広く保護者への情報発信の拡充を図る。 平成30年 4月から、窓口で実施する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
現在は、母子健康手帳交付時または妊婦の転入手続き時（妊婦健診受診券交換時）に子育てナビの案内のみの実施であるため、登録時のサポートをしていき、その場で登録してもらえようとする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	委託料変化なし。今の契約内容で、内容の拡充は十分に可能であるため、予算に影響はない。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
平成29年4月の導入に向け、業者の選定、契約後、守谷市ホームページとのリンクの確認、メール配信の内容を検討し、導入に向けての準備をした。母子健康手帳交付時や転入手続き、乳幼児健診での直接の周知のほか、病院や公共施設等でのポスター掲示、保育所入所世帯への周知の準備をおこなった。	平成29年4月に導入し、母に限らず父も登録できることを伝え、広く保護者への情報発信の拡充を図った。 平成30年4月から平日の妊婦の全数面接実施体制が整うことから、今後は妊娠期の登録を勧めていくために、窓口での周知、登録を強化する。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
もりや子育てナビ登録者数（人）	0.00	0.00	914.00	1,200.00	2,100.00
この地域で子育てをしたいと思う親の割合（健やか親子21アンケートより）（％）	0.00	96.10	96.10	95.00	95.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下		母子健康手帳の交付時の周知を通して登録者数が伸びており、子育て情報が定期的に発信できている。また、子育てナビのアクセス数は月2万回前後で推移しており、保護者の子育て情報を得るツールとして受け入れられていると考えられ、成果は向上している。			
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持 □ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了		次年度も同様、妊娠週数や月齢に応じた定期メール配信を中心に、教室参加者募集など情報発信を継続して実施する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	999	1,115	1,115	1,115
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	1,115	1,115
	一般財源	0	999	1,115	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	29.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	119	0	0
トータルコスト		0	999	1,234	1,115	1,115